

ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校
グループC 展示「まさにそうであることの嚙下」開催のお知らせ



2018年9月から12月まで、毎月、新芸術校受講生による新しいグループ展を五反田アトリエにて開催。
11月10日（土）にはその第3弾となるグループCの展示「まさにそうであることの嚙下」がオープン。キービジュアルは國富太陽、デザインはBB[おおば英ゆき]による。

（1）概要

2018年11月10日より18日まで、東京・五反田のゲンロンカオス*ラウンジ五反田アトリエにて、ゲンロンカオス*ラウンジ新芸術校第4期生グループ展、グループC「まさにそうであることの嚙下」展を開催いたします。新芸術校第4期生のうち7名の作家が、つかいみちのわからない自分たちの作品を、使いなじんだ現実と違いながらもそれぞれの技術で実現しようとする試みです。皆様のご来場をお待ちしております。11月11日（日）にはゲスト講師に高山明氏をお迎えし、講評会を開催いたします。講評会の模様は生中継で無料ネット配信を行います。遠方にお住まいのかたにも展覧会をご覧いただける機会となります。ぜひご利用ください。

ゲンロンカオス*ラウンジ新芸術校では、2017年度よりカリキュラムに展示を取り入れていきます。毎年秋から冬にかけての4ヶ月、受講生が4つのグループに分かれて展示を作ります。これらの展示では、批評家・黒瀬陽平主任講師の指導のもと、受講生がみずから企画・キュレーション・作品制作を行っています。展示には毎回、ゲスト講師をお招きして講評会を実施し、その模様はニコニコ生放送のゲンロン完全中継チャンネルにて無料生中継します。生中継では、受講生＝作家による作品の解説のほか、講師のみなさんによる作品の評価、展示の総評などを放送予定です。ゲスト講師には鴻池朋子氏、飴屋法水氏、高山明氏、宇川直宏氏をお招きします。

4回のグループ展は最終講評会への選考も兼ねており、これらの展示で卓越した力を発揮した受講生5名は、3月にゲンロンカフェで行われる最終講評会に出品することができます。

ゲンロンカオス*ラウンジ新芸術校は思想家・東浩紀が運営する株式会社ゲンロンが2015年に立

ち上げたアートスクールです。美術批評家の黒瀬陽平氏を主任講師に、会田誠氏、榎木野衣氏、岡田利規氏、宮台真司氏ら、多彩なゲスト講師をお迎えして、美大とは異なる形で美術家を育成してきました。第1期の最終講評会で優秀賞を受けた弓指寛治氏 (<https://www.yumisashikanji.com/>) は、第21回岡本太郎現代芸術賞(2018年2月)において銀賞に当たる岡本敏子賞を受賞、第2期優秀賞の磯村暖氏 (<http://danisomura.tumblr.com/>) は台湾やロンドン、タイなど、国際的に活躍の場を広げています。第3期優秀賞の新井健氏は、2018年秋にワタリウム美術館地下のギャラリー、オン・サンデーズで個展「OUTTA STEP」 (<https://bijutsutecho.com/ex-hibitions/2532>) を開催しました。ほかにも、中央本線画廊を運営する秋山佑太氏 (<http://yutumn.com/>) ら、新芸術校出身の作家たちは活躍の場を広げています。

(2) 展示概要

【グループ C】まさにそうであることの嚥下 / Swallowing what exactly is that

参加作家 木村文香、國富太陽、小林真行、谷本美貴子、AQ(劇団 芸術治療院)、BB[おおば英ゆき]、F・貴志

展示期間 2018年11月10日(土)～11月18日(日)

※11月11日(日)は講評のため終日休廊となります。

会場 ゲンロン カオス*ラウンジ 五反田アトリエ

〒141-0022 東京都品川区東五反田 3-17-4 糟谷ビル 2F Tel: 03-5422-7085

開廊時間 平日 15:00-20:00、土日 13:00-20:00 (講評会実施日を除く)

website <http://chaosxlounge.com/wp/archives/2393>

講評会日時 2018年11月11日 13:15～16:30 ※会場参加は受講生のみとなります。

講評会ゲスト講師 高山明氏

講評会生放送番組 URL <http://live.nicovideo.jp/gate/lv316587409>

展示ステートメント

まさにそうであることの嚥下

アーティストとしてだけ生きているわけではないけれど、しかし作品を作ってわざわざ見せる私たちにとって、アートはアーティストたちのものであっても、だからといって私たちが一人一人暮らしている個人的な現実だけに有効なものであってもならない。それらがいびつに共にしているおおきな現実のなかで一つの「まさにそうであること」として、かたち作られるべきではないだろうか。私にとって現代美術は、そのジャンルを自警するために使うものではない。複数に制度化された現実からはみでたどうしたらいいかわからないすがたかたちと、そのまま居合わせることができ現実を勝手に追加するためのひとつの方策である。

私たちは自分たちに共通のテーマやキーワードを設けた一つの展覧会を作るのではなく、それよりも7人の作家たちでばらばらのテーマの作品を持ち寄った展覧会を作ることにした。ならばせめて、指針だけは持っていようということで「まさにそうであること」という言葉を私とその箇所にはめた。

「嚥下」というあまり聞きなじみのない言葉が、参加作家の一人であるF・貴志から展覧会タイトルを決める話し合いの場で提案されたとき、同じく参加作家の一人の谷本美貴子が「おくすり飲めたね」という商品のことを話してくれた。「おくすり飲めたね」とは、幼い子供が錠剤や漢方薬などの苦くて飲みにくい医薬品の服用をサポートする、チョコレートやイチゴの味がついたゼリー飲料のことである。子供にとっての漢方薬のような、なかなか飲みこめないものを意気込んでゴクンと飲みください。なんの気なしに行っている飲み込むという行為が意識化される時、そのことは少しかしこまって「嚥下」と呼ばれなす。

この学校で勉強していることは、ここから帰っていく家のなかにある現実では使わないようなかたちや、言葉でできている。なぜそんなことを学ぶかということ、私たちにとってそれは、私たちがひとりだけで思いついた突飛なアイデアを、もう一人のいる、そしてその家のある現実、突飛

なままでかたちにして持っていくための技術だからだ。見覚えのない、つかいみちのわからない私たちの作品が、私たちが使いなじんだ現実と違いながらも居を共にしていた「まさにそうであること」であるなら、それはたとえ私の祖母にも飲み下せるはずだ。私たち新芸術校第4期生グループCが行う『まさにそうであることの嚙下』は、これまで書き連ねてきたあたりまえのことをあらためて覚悟して、それぞれの技術で実現しようとする7人が集まった、現代美術の展覧会だ。(國富太陽)

(3) ゲンロン カオス*ラウンジ 新芸術校第4期最終講評会予定

実施日 2019年3月2日(土)

審査員 岩淵貞哉氏、津田大介氏、和多利浩一氏、黒瀬陽平氏

(4) 主催、協力、お問い合わせなど

主催 株式会社ゲンロン 協力 合同会社カオスラ

新芸術校公式サイト <http://school.genron.co.jp/gcls>

新芸術校公式フェイスブック <https://www.facebook.com/genrongcls>

新芸術校公式ハッシュタグ #新芸術校

お問い合わせ E-mail: info@genron.co.jp Tel: 03-6417-9230 (担当上田)